

原 著

## レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒変化と競技成績との関係 第9報 —平成21年度天皇杯全日本におけるK大学生及び、大学院生の場合—

### A study of the correlation between changes of characteristic traits and peak performance of long-distance runners before and after the competition — In case of 85th Hakone-ekiden of K-university in 2009 —

滝山 将 剛\*, 和田 貴 広\*\*, 嘉 戸 洋\*\*\*, 大 館 信 也\*\*\*\*

Yukitaka TAKIYAMA\*, Takahiro WADA\*\*, Hiroshi KADO\*\*\* and Shinya OODATE\*\*\*\*

#### ABSTRACT

Using the same method as the characteristic trait test (Y-G test) and based on our previous reports, we investigated the relationship between changes in characteristic traits in wrestlers of K-university just before a big competition and their peak performance in the Emperor's All-Japan Competition in 2009. With regard to the present results of the investigation of the relationship between changes in individual characteristic traits and peak performance before and after the competition, we summarized the following: 1) Most of the present results confirmed previous results - that is, wrestlers who have positively-changed characteristic traits before and after the competition have shown peak performance; 2) However, in the present case, typical sportsman's characteristic trait (D-type) composed only 20%, with the remainder being composed of the A-type (80%). Additionally, there were no E-type or B-type wrestlers; 3) Large changes in characteristic traits were observed after the competition only in wrestlers who had shown good peak performance. Although we can't clearly explain this new phenomenon obtained from the present study, this evidence may suggest a new tendency in recent young wrestlers and may be an important factor in creating future study and training programs.

#### は じ め に

筆者らは、選手の競技力向上に重要な側面として「精神力」を取り上げてきた。特に格闘技においては体力や技能以上に、競技の勝敗に直接的な

影響を与えると考えられる選手の内的側面（精神力、闘争力）を科学的に解析し、その重要性を強調してきた<sup>3) 4) 5) 6) 7) 8) 9) 10) 11)</sup>。選手の内的側面（心理的側面）を科学的に解析することは平易なことではない。しかし、今日まで筆者らは、性

\* 国士館大学体育学部 (Faculty of Physical Education Kokushikan university)

\*\* 国士館大学レスリング部コーチ (Kokushikan University Wrestling Coach)

\*\*\* 環太平洋大学 (International pacific university)

\*\*\*\* 自衛隊体育学校 (physical Training School JDA)

格特性の検査法として広く受け入れられ、信頼性の高さに定評のある矢田部・ギルフォード(Yatabe・Guilford) 性格検査（以下 YG 検査という）を使用して、極度の緊張が高まり動揺が起りやすい場面での選手の内面を把握することに成功した。即ち、YG 性格検査を選手の心理的变化が著しく起こると考えられる大きな大会（五輪や国際大会等）の試合前夜に実施し、普段の性格類型のどの性格類型の者が、極度に緊張が高まった場面においてどのような情緒変化を来すかを調べる方法である。それらの結果、今までは漠然と、「アガリ」と言う表現で経験的に捕えられていた選手の試合前後の情緒変化が、YG 性格検査の情緒変化の尺度、D 尺度（抑うつ性）、C 尺度（気分の変化）、I 尺度（劣等感）、N 尺度（神経質）らに情緒不安定要因として如実に反映されることが分かってきた。言い換えれば、数値では表現できないまでも「心理的側面の変化を科学的に捕らえることができるようになった」ということである。しかし、未だ十分に個人の性格特性や情緒変化が競技成績にいかに関与するかについて明確に解説するまでには至っていない。そこで今回は、これらの一連の研究の継続として、この点を一層明確にする目的で、平成 21 年 12 月 21 日～23 日代々木第二体育館で開催された平成 21 年度天皇杯全日本レスリング選手権大会に出場した K 大学生、及び大学院生選手を対象に、同様の方法を用いて選手の情緒変化と、実際の競技成績との関係について調査・解析し、今後の選手育成の一助にしようとするものである。

### 対象及び測定方法

対象者は、出場資格を獲得した選手で、平成 21 年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場の K 大学生 7 名及び、大学院生 3 名の合計 10 名であった。

階級とフリースタイルは 60kg 級 1 名、74kg 級 2 名、84kg 級 1 名、120kg 級 2 名、グレコロー

マンスタイルでは 60kg 級 1 名、66kg 級 1 名、84kg 級 1 名、96kg 級 1 名の合計 10 名である。

表 1 に、氏名、学年、年齢、スタイル、階級、今回の成績、過去の成績を一覧にして示した。選手の情緒変化については、先の報告と同様に YG 検査を使用し、普段の練習時、試合直前、試合後の 3 回実施した。試合直前では、選手が最も緊張し、動揺の起り易いと推察される軽量日前夜に実施した。第 1 回目は、普段の性格特性を把握する目的で、平成 21 年 12 月 10 日、通常の練習時に実施した（○印）。2 回目は各階級で異なるが、12 月 19 日、フリースタイル 84kg 級 1 名、120kg 級 2 名、グレコローマンスタイル 96kg 級 1 名、12 月 20 日フリースタイル 60kg 級 1 名、74kg 級 2 名、グレコローマンスタイル 66kg 級 1 名、84kg 級 1 名、12 月 21 日グレコローマンスタイル 60kg 級 1 名（△印）。3 回は試合後 2 週間後に対象者全員に実施した（●印）。YG 性格検査の実施方法及び、処理方法は先の報告の通りである。

### 結果と考察

#### 1. レスリング選手の性格特性について

表 2 に、平成 21 年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場選手 10 名の性格類型比率をまとめて示した。

YG 性格検査プロフィールの類型に準じ、得られた対象者 10 名の性格プロフィールから大きく 2 つの性格類型に分類可能であった。その結果から、平凡型（A-型：平均型）、を示した選手が 8 名（80%）で、右下がり型（D-型：安定積極型）を示した選手が 2 名（20%）であった。これらの

表 1. 性格特性の人数とそのパーセンテージ  
平成 21 年度 天皇杯全日本レスリング選手権大会

|     |         |
|-----|---------|
| A-型 | 8名（80%） |
| D-型 | 2名（20%） |

N = 10

性格類型の内訳から、先に報告されているスポーツマン的<sup>2)</sup>性格の典型とされているD-型：安定積極型を示す選手は2名（20%）と少なかった。また、今日までスポーツマンとしては、どちらかと言えば異端視されていた性格特性を持つE-型：不安定消極型を示す選手はみられなかった。筆者らがこの研究を始めて以来20数年が経過したが国際大会において活躍している選手にもE-型や、B-型：不安定積極型を示す選手が漸増の傾向を示していたが本調査では、E-型及び、B-型を示す選手はみられなかった。

注目されることは、A-型：平凡型を示す選手が8名（80%）と多くを占めていたことである。この性格特性は「すべての性格特徴について平均またはそれに近い状態を示す人で、万事についてとりたてて特徴を示さぬ人である。換言すれば平凡な人物で、積極的に性格特性診断を下しにくいタイプであり、臨床心理学的にも問題点のない人

である<sup>12)</sup>」。この意味するところは、個性の乏しい平均的現代人を象徴する特徴的な現象の表れだと推察される。因みにA-型を示した学年の内訳は1年生と2年生が5名、3年生が1名、院生2名で、若い選手に多くみられた。時代の変化、生活環境の変化に相応して従来では見られなかった性格特性を有する選手が出現し、選手の心理的側面において質的な変化が確実に起こっていることを示している。したがって画一的な選手管理法では対応できないことを示唆しており技術面、体力面の改変と平行して、指導者は常日頃から個人のパーソナリティを十分考慮しておかなくてはならない重要な課題である。

## 2. 情緒変化と競技成績との関係について

対象者10名の性格プロフィールから性格特性はA-型と、D-型の2つの型のみであった。優勝者2名の性格特性は異なっていた。

表2. 平成21年度天皇杯全日本レスリング選手権大会の氏名、年齢、学年、階級、スタイル、今回の成績及び過去の成績

| 氏名  | 年齢 | 学年 | 階級    | スタイル | 今回の成績 | 過去の成績           |
|-----|----|----|-------|------|-------|-----------------|
| Y.K | 19 | 2  | 60kg  | G    | 1回戦   | '09 東日本学生新人戦 2位 |
| H.O | 21 | 3  | 60kg  | F    | 優勝    | '09 全日本学生 優勝    |
| S.F | 20 | 2  | 66kg  | G    | 1回戦   | '09 東日本学生新人戦 優勝 |
| Y.S | 19 | 2  | 74kg  | F    | 1回戦   | '09 東日本学生新人戦 優勝 |
| K.K | 19 | 1  | 74kg  | F    | 1回戦   | '09 内閣杯全日本大学 3位 |
| Y.S | 20 | 2  | 84kg  | F    | 1回戦   | '09 内閣杯全日本大学 5位 |
| T.G | 24 | 院2 | 84kg  | G    | 1回戦   | '09 全日本社会人 優勝   |
| N.I | 23 | 院1 | 96kg  | G    | 2回戦   | '09 全日本社会人 3位   |
| T.S | 24 | 院2 | 120kg | F    | 優勝    | '09 新潟国体 優勝     |
| Y.U | 21 | 3  | 120kg | F    | 1回戦   | '09 東日本学生新人戦 優勝 |

## D-型について

図1にD-型を示した、フリースタイル120kg級優勝のT.S選手のものである（表1参照）。

選手のプロフィール：高校時代から重量級のホープとして将来を嘱望された選手である。従来は96kg級であったが、練習時間の制約を考慮し、大学院進学を機会に階級を上げる。苦しい減量から開放される半面、体力強化が重要となったが、限られた時間内で効率よい体力作りトレーニングを計画し実行することで体力強化に成功する。

試合直前の情緒変化について：D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向；気が変わり易く、感情的であるなど）、N尺度（神経質）など情緒不安定を示す尺度に減少がみられた。その意味するところは試合直前において情緒的側面の不安定要因が払拭され心理的側面の充実が図られたものと推察される。換言すれば気力の充実が高まったものと言える。

競技成績との関わりについて：試合内容は、スピードに加え技の切れ味は軽量級の動きを彷彿させるもので、レスリングの妙を感じさせるもので、完璧に近い試合内容であった。

情緒変化についての付言、2週間後実施の3回目のYG検査において情緒的側面の尺度が情緒不安定要因に移っていた。勝利を得て自己陶醉に浸るこの時期において情緒不安定要因の出現がみられた。この意味するものの解明が今後の検討課題である。

図2の結果は、D-型を示し、フリースタイル74kg級1回戦敗退のY.S選手のものである（表2参照）。

選手のプロフィール：高校時代からトップレベルの選手である。大学2年生、有望選手であるがインカレなどのトップレベルでの大会はベスト8位が最高、新人戦（東日本1・2年生が出場）で優勝し本戦への出場資格を獲得。

試合直前の情緒変化について：情緒的側面を表す尺度（I尺度；劣等感、N尺度；神経質）の変化少なく、D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向；気が変わり易く、感情的である）に減少がみられた。他の尺度においては著しい変化はみられず情緒的側面の変化は少ないものと推測され、D-型の最も特徴と思われる心理的側面は平常心

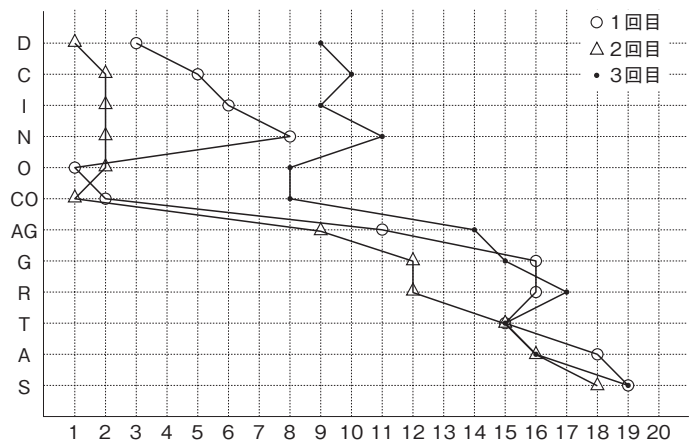


図1 情緒変化からみたD-型を示した選手 (F120kg T.S)

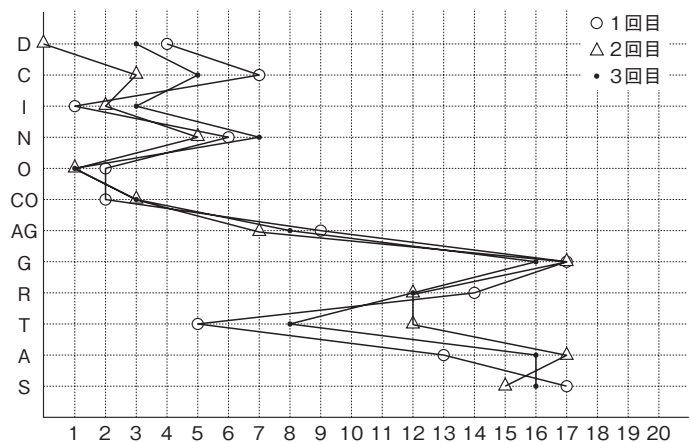


図2 情緒変化からみたD-型を示した選手 (F74kg Y.S)

を維持し精神的には安定していたものと推察される。D-型における特徴であり、先の報告を支持するものであった。

競技成績との関わりについて：上位進出は達成ならなかったが気力溢れる試合内容で、若い選手としての将来性を感じられるものであった。

#### A-型について

図3の結果は、A型を示し、フリースタイル60kg級で優勝したH.O選手のものである（表2参照）。

選手のプロフィール：少年時代から注目された選手で、全国中学3連勝を達成、将来が囑望された逸材である。高校、大学共に活躍するが、力強さと不安定さが同居していた。今年に入って無敗をほこり抜群の安定感が出てきた。世界で戦える素質は十分保持している。世界での厳しい経験を乗り越えられれば世界の頂点に立てる素質は十分保持している。

試合直前の情緒変化について：C尺度（回帰性傾向、気分が変わり易く、感情的になるなど）、減少、またN尺度（神経質）は大きく減少していた。この意味するところは、試合前の情緒的变化は少なく、試合という緊張した場面においても心理的側面は平常心を保っていたものと推察される。試合後のインタビューに答えて「集中し強気な心で戦った」話した言葉が情緒面の全てを表現していたと推察される。

競技成績との関わりについて：北京オリンピック銅メダルを始め、世界3位など国際大会で活躍した強豪が揃う激戦の階級である。試合内容は失点が少なく、接戦を勝ち抜き力強さが際立っていた。

図4の結果は、A-型を示し、フリースタイル74kg級1回戦敗退のK.K選手のものである（表2参照）。

選手のプロフィール：高校1年から頭角を現したトップレベルの選手である。大学1年生でありながら常に3位以上の成績を残す活躍をしている。特筆されることは1年生ながら5月の大学デビュー戦である団体戦（東日本学生リーグ）において5戦全フオールの勝ちの新記録を樹立。春季新人戦優勝、内閣杯全日本大学3位、国体3位、各大会で3位以上に入賞する。

試合直前の情緒変化について：D尺度（抑うつ

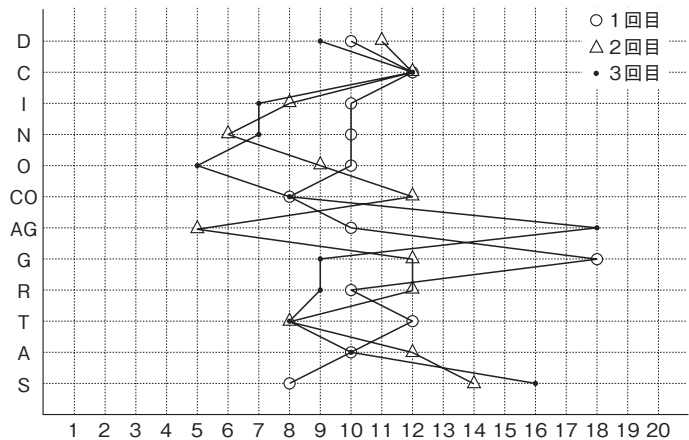


図3 情緒変化からみたA-型を示した選手（F60kg H.O）

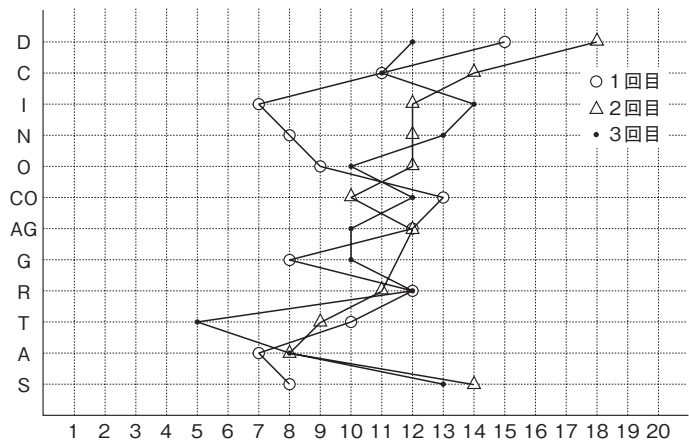


図4 情緒変化からみたA-型を示した選手（F74kg K.K）



性)、C尺度(回帰性傾向、気分が変わり易く)、I尺度(劣等感)、N尺度(神経質)などの尺度で情緒不安定要素への変化がみられる。試合への不安からきたものか、長いシーズン最後の大舞台まで精神的コントロールができなかったのか、強気で戦う選手の姿からは予測しがたい傾向である。

競技成績との関わりについて：情緒変化がマイナス要素に変化した最大の原因は、大学入学以来全てに全力投球で、全ての大会において上位入賞する活躍をしてきたが、年間7大会において減量と緊張感を維持することの厳しさが、シーズン最後の大舞台まで継続ができなかったものと推察される。加えて、膝の半月版損傷も重なり精神的に余裕を喪失したもののと思われる。一ヶ月前の内閣杯全日本大学時のYG検査では、情緒変化の尺度は全てプラスの要因に変化していた事実がある。試合は1回戦で優勝者と対戦し接戦で敗退。

図5の結果は、A-型を示し、グレコローマンスタイル96kg級2回戦敗退のN.I選手のものである(表2参照)。

選手のプロフィール：高校2年生からレスリングを始める。努力が実を結び大学後半から急上昇した遅咲きの選手である。大学院での研究と練習の時間を工面しながら文武両道を目標に努力している。

試合前の情緒変化について：D尺度(抑うつ性)、C尺度(回帰性傾向、気分が変わり易い)I尺度(劣等感)などの尺度において少々であるが情緒不安定要素の出現がみられた。これらは試合への緊張感高まりであると推察さ

れる。

競技成績との関わりについて：2回戦敗退であったが、トス(攻撃の優先権)のでの敗戦であり試合内容は良好であった。今後は経験を積むことで益々の成長が期待できる。

図6の結果は、A-型を示し、グレコローマンスタイル66kg級1回戦敗退のS.F選手のものである(表2参照)。

選手のプロフィール：高校時代からトップレベル活躍した選手である。勝負強さには定評のある選手である。将来を嘱望される選手でもある。

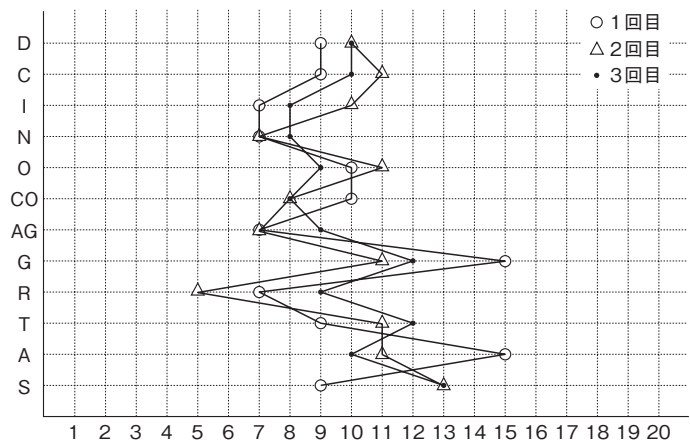


図5 情緒変化からみたA-型を示した選手 (G96kg I.N)

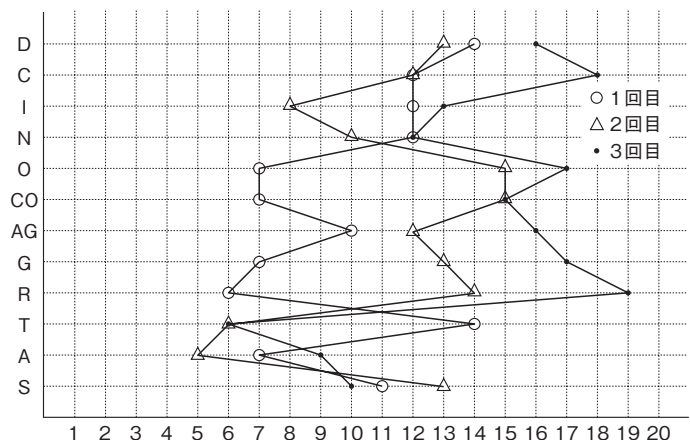


図6 情緒変化からみたA-型を示した選手 (G66kg S.F)

試合前の情緒変化について：情緒変化を示すD尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気分が変わり易い）、尺度（劣等感）、N尺度（神経質）などの尺度において減少がみられた。この意味することは、心理的側面においては充実していたものと推察される。

競技との関わり：1回戦でシード選手との対戦で試合内容は接戦で経験の差が出た試合だった。経験を積むことで、トップレベルに到達するものと期待できる。

図7の結果は、A-型を示し、フリースタイル84kg級1回戦敗退のY.S選手のものである（表2参照）。

選手のプロフィール：全国高校（I・H）で団体優勝するレスリングの名門校出身であり、本人もトップレベルの選手である。

試合前後の情緒変化について：情緒変化を示すD尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気分が変わり易い）、I（劣等感）、N（神経質）において情緒不安定要因への変化がみられた。多くの試合経験を持つ選手が何ゆえにこのような変化を来すのか今後の検討課題である。

競技との関わりについて：過去の大会で接戦の試合を競い負けるケースが数試合あった。今回も同様なケースでの敗戦だった。続ける集中力を試合の最後まで保持できれば、大いに成長が期待できる選手である。

図8の結果は、A-型を示し、グレコローマンスタイル60kg級1回戦敗戦のY.K選手のものである

（表2参照）。

選手のプロフィール：粘り、緻密さには掛けるところがあるが勝負強さを持った選手である。

試合前後の情緒変化について：D尺度（抑うつ性）、C尺度（回帰性傾向、気分が変わり易い）では情緒変化の減少がみられ、I尺度（劣等感）などに少しの不安定要因の移行していた。この意味するところは、心理的側面は安定していたもの推察される。

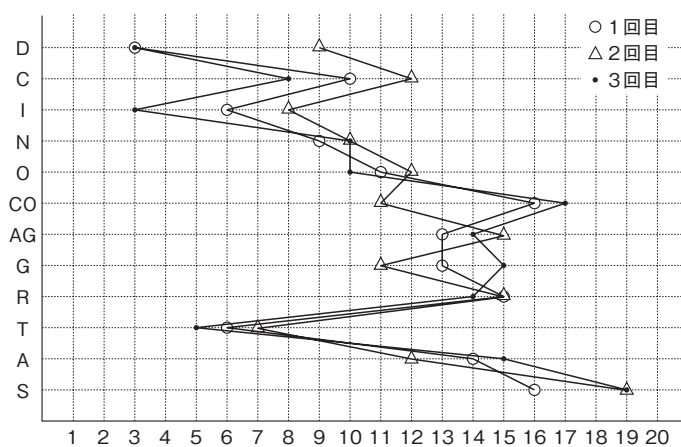


図7 情緒変化からみたA-型を示した選手（F84kg Y.S）

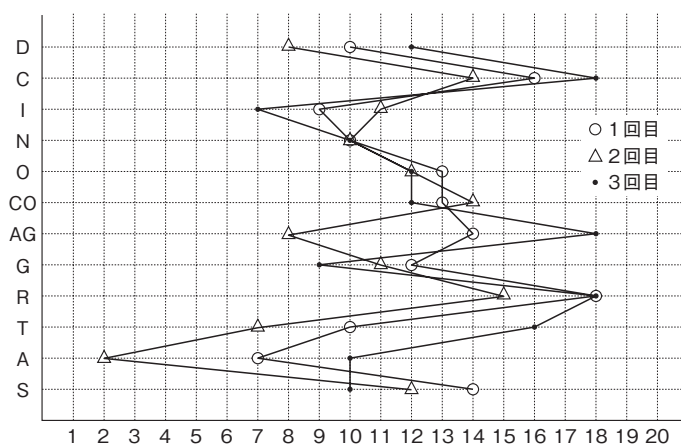


図8 情緒変化からみたA-型を示した選手（G60kg Y.K）

競技成績との関わりについて：格上の選手との対戦であったがよく善戦した。

図9の結果は、A-型を示し、フリースタイル120kg級1回戦敗退のY.U選手のものである（表2参照）。

選手のプロフィール：高校時代から大型選手として期待されたが、怪我が多くトップレベルに達していない。

試合前後の情緒変化について：D尺度（抑うつ性）、C尺度（帰性傾向、気分が変わり易い）I尺度（劣等感）などが少し不安定要素に移行していた。しかし、N尺度（神経質）の尺度に減少がみられた。

競技成績との関わりについて：リードしていた試合を逆転負け、調整不測から心理的側面への影響が強く出たものと推測される。

A-型を示したG84kg級のT.G選手については資料不足のため考察から除外した。

## ま と め

平成21年度天皇杯全日本レスリング選手権大会出場のK大学生7名及び、大学院生3名の合計10名に対するYG性格検査の結果から以下の結果が得られた。

A-型8名（80%）及び、D-型2名（20%）の性格類型であった。A-型急増は、先の報告とは大きく異なる結果であった。

また、従来のレスリング選手の性格特性は、典型的なスポーツマン的性格と言われるD-型を示す選手が大半占めていたが、今回は2名（20%）であった。どちらかと言えばスポーツマンとしては異端視されていたE-型やB-型の性格特性を持つ選手が漸増する傾向がみられたが、今回は見当たらなかった。

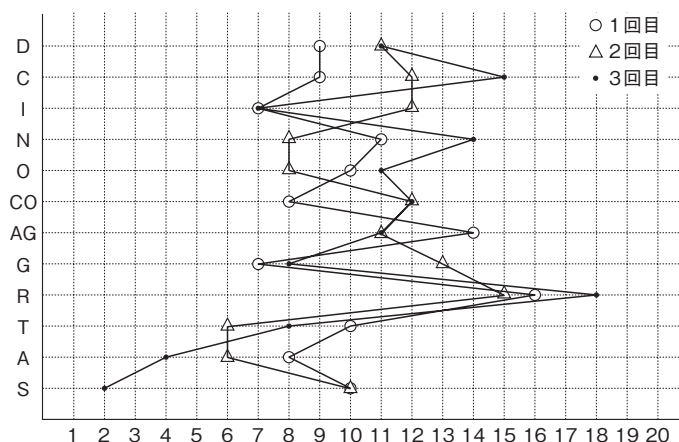


図9 情緒変化からみたA-型を示した選手（F120kg Y.U.）

情緒変化と競技成績との関係については、D-型を示し不安要因の減少がみられた2名のうち1名は優勝者であった。A-型では、優勝者のH、Oを始め、情緒変化の不安要素の減少が確認でき選手、変化が少なかった選手らは、概して好成績または、試合内容において良好であった。このことは先の報告を支持するものであった。

好成績を挙げた選手の、試合後の情緒変化が不安定要素の出現については今後の研究課題である。

## 引用・参考文献

- 1) 小林晃光；スポーツマンの性格－性格からみた運動競技上達への道－、杏林書院、1986
- 2) 花田啓一・他；スポーツマン的性格、不昧堂P.83～92、1968
- 3) 滝山将剛他；レスリング選手の性格特性（第I報）－試合前後の変化について－、国士舘大学体育研究所、第5巻、P.31～37、1979
- 4) 滝山将剛他；レスリング選手の性格特性（第5報）、－第24回ソウルオリンピック大会の試合前後における情緒の変化と競技成績との関係－、国士舘大学体育研究所報、P.13～19、1988
- 5) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の性格情緒の変化と競技成績との関係、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、P.206～209、1991
- 6) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒変化と競技成績との関係、日本体育協会医・科学研究報告、P.277～279、1992



- 7) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性と試合前後の情緒的变化との関係、日本体育協会医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究、P.259～262、1994
- 8) 滝山将剛；レスリング選手の性格特性（第6報）；  
- 1993年度世界選手権大会及び、エスポアール世界選手権大会における試合前後の情緒変化と競技成績との関係-、日本体育協会スポーツ医・科学研究報告、No II 競技力向上に関する研究報告、P.291～294、1995
- 9) 滝山将剛他；レスリング選手の性格特性（第7報）  
第21回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化と試合成績との関係・優勝チームのK大学の場合、国士舘大学体育研究所報Vol.14、P.11～14、1996
- 10) 滝山将剛他；レスリング選手の性格特性（第8法）  
第23回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大会における試合前後の情緒変化とK大学の場合、国士舘大学体育研究所報、Vol.16、P.63～68、1997
- 11) 滝山将剛；試合前後の情緒の変化と競技成績との関係について、- 2009箱根駅伝におけるK大学の場合-、国士舘大学体育研究所報、P.43～48、2009
- 12) 辻岡美延；YG性格検査手引き、日本心理テスト研究所、1978